



いのちにやさしいまちづくり



Neko-Dasuke <http://nekodasuke.main.jp/>

会報紙「ねこだすけニュース」次号発行迄
の合間に、さまざまな出来事の一部です。

ご寄付御礼 「ねこだすけニュース54号」を12月に発行しましたがトラブル続きでした。

創刊号から編集制作に使っていたパソコンが故障し、アプリケーションも使えなくなりました。

会員名簿用の古くからのアプリも同様で、バックアップしたデータからの郵送用宛名ラベル印刷もトラブル続き。通常は郵送1000通を超えるが今回も930通でした。

郵送料金を「はがき切手のクラウドファンディング」として、書き損じはがきや未使用切手のご寄付をお願いしたところ、郵送料必要額の七割を超えるご寄付をいただきました。有難う御座いました。尚、郵送や宅配便などの通信費は日常的な出費です。書き損じはがきや使わなくなった切手などございましたら、引き続きどうぞ宜しくお願ひいたします。

環境省へご挨拶。 12月22日、HARO（一社）ヒューマン＆アニマル・ライツ機構理事長小倉ジャンヌ様に同行しまして、環境省に8月に赴任されました野村動物愛護管理室長に面会をいたしました。（※注：ジャンヌちゃんは小倉さんを秘書とする猫さまで、本日は不在です。）

同機構の小野先生、小川先生にご尽力を頂きまして、環境省へのお願い事が前進しましたことへの御礼、加えましてかなりのお時間を頂きましたので、今問題の多頭飼育と多機関連携についてワンウェルフェアの資料もお渡しし、色々とお話しすることができました。（ねこだすけ代表理事工藤久美子のフェイスブックより一部引用）

12月21日、 港区役所麻布支所で福祉関係者様、港保健所職員様と多頭飼育問題について話し合いがございました。

●動物ボランティアは、福祉関係のお仕事について殆ど知らない。

●同様に福祉の方々も動物部署、或いは動物ボランティアの活動に関して殆どご存知ない。

●まず福祉の方から保健所にご相談を頂く。それを保健所が支所、動物ボランティアと情報共有をする。どんなに些細な事でも、保健所にご相談頂く、これが大切と感じました。

今日ご相談の一つは、

●不妊手術を受けさせたいとの飼い主の希望だが、病院に連れて行ける状況では無い。訪問獣医

2021令和3年12月 こぼれはなし1号

NPOねこだすけ 〒160-0015 東京都新宿区大京町5-15-203

Tel.&Fax.03-3350-6440

師はいるのか、どうすれば良いのか。

これは私達動物ボランティア、また地域の猫好きの方でも病院搬送は可能、とお話ししました。つまり、この段階でもう詰まってしまう。動物ボランティアの出来る事、出来ない事についてもお話しさせて頂きました。保護譲渡の困難さ、シェルター運営をしている団体の紹介は、安易に出来かねること、またその理由もお伝えしました。大変有意義な時間でございました。

この機会を与えてくださいました港保健所様、またワンウェルフェア渡辺理事長、社会福祉協議会の皆様、お忙しい中誠にありがとうございました。（ねこだすけ工藤のフェイスブックより）

12月18日、 夜7時から深夜1時過ぎまで延々6時間の、ねこだすけWeb忘年会でございました。初参加の「常滑地域猫の会」代表入山様のご相談は、実に興味深かったです。学んだことは、

●全国自治体はそれぞれ事情が異なる。人口、面積、財政状況など。それを考慮しなくてはなりません。

●職員様も、地域猫活動について、何をどうすれば良いのか分からずにいる方が多い。緩やかな情報交換、協働作業を通じて信頼関係を作ると同時に、職員様に活動について少しづつ知って頂く事。

●行政にはあまり多くを期待しない。現場を見ながら行政が今出来る事をまずお願いする。出来そうにない事をお願いすると、お互いに不愉快になるだけかと。

私の理想とする、少人数のWeb個別相談会。楽しく有意義な時でございました。末吉先生、宮爺様、たま様、西巻様、入山様、お忙しい中誠にありがとうございました。（ねこだすけ工藤のフェイスブックより）※Webオンラインミーティングのご案内は、ねこだすけホームページよりリンクしています。

12月23日、 地域猫対策のレジエンド佐竹氏と数年ぶりに面談の機会をいただきました。獣医資格を持ち、東京都の飼い主のいない猫対策プロジェクトを作り上げ成し遂げた元担当職員です。

敢えて都が「地域猫」の言葉を使わなかったのは「野良猫を地域猫と言い換えるだけの施策ではない」ので、名称を「飼い主のいない猫」としました。

また同氏は東京都の「飼い主のいない猫」との共生をめざす街ガイドブック、を2006年に発行し、改訂を加えながら現在でも続いている。同じように作成した一枚のリーフレットは、十数年を経た今でも改訂されながら使われています。

我が国初の地域猫対策セミナーで講師を引き受けていただき、現在の各地のセミナーのルーツになりました。都庁を退職後は誠に残念ですが、猫や動物愛護とはご縁がなくなっているようです。